藤崎町小型構造物個別施設計画

令和４年２月

藤　　崎　　町

目　次

1. 対象施設

2. 小型構造物の現状

2.1　管理延長と主な施設数

2.2　小型構造物の種類

3. 小型構造物の維持管理の基本的な考え方

3.1　管理の現状

3.2　小型構造物の劣化状況

3.3　管理施設の分類

3.4　点検方法・点検頻度

4. 計画期間

5. 対策の優先順位（補修計画の方針）

6. 対策内容、修繕費用、実施時期

7. 記録

1.対象施設

・この計画は、道路法第２条第２項に基づき、藤崎町が管理する防雪柵、標識（門型及び情報板は除く）及び照明、防護柵、融雪溝を対象とする。

2.小型構造物の現状

2.1　管理延長と主な施設数

・防雪柵

区分・町道名	種　類	延　長（m）
１級　福舘水木線	固定式	320
	仮設式	116.5
１級　水木榊線	仮設式	28
１級　常盤福島線	固定式	456
１級　水木若松線	固定式	392
２級　矢沢柏木堰前田線	仮設式	196
２級　福島徳下線	仮設式	132
その他　種増福富線	仮設式	64
その他　東若松早稲田線	仮設式	64
その他　福左内北田線	仮設式	28
その他　国道若松踏切線	仮設式	200
その他　常盤中部線	固定式	2094
その他　福島広域線	固定式	1860
その他　富柳派立線	仮設式	４０
計	固定式　5122m	仮設式　868.5m

・標識、街路灯

	管理延長	標　識		照　明
		片持ち式	路側式	
藤　崎　町	16km	21 基	4 基	44 基
計	16km	25 基		44 基

・防護柵

道路種別	町道延長	防護柵設置延長
1 級町道	25.5235km	4.998km
2 級町道	22.4679km	0.329km
その他町道	183.0455km	8.450km
計	231.0369km	13.777km

・融雪溝

	地　区	整備延長	合　計
県　道	藤崎地区	10.336km	12.191km
	常盤地区	1.855km	
町　道	藤崎地区	7.751km	21.601km
	常盤地区	13.850km	
計			33.792km
ポンプ	藤崎地区　16 基	常盤地区　5 基	21 基

2.2　小型構造物の種類

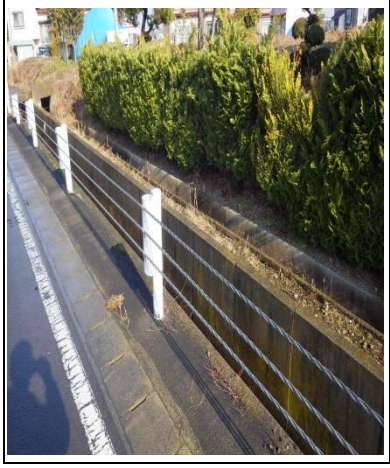
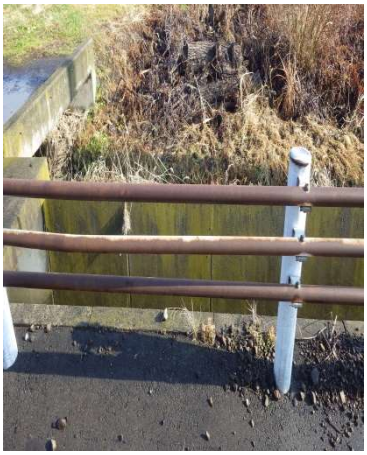
・防雪柵

固定式	仮設式

・標識、街路灯

片持ち式	路側式	照　明

・防護柵

ガードケーブル	ガードパイプ	ガードレール
		

・融雪溝

融雪溝	ポンプ・配電盤

3. 小型構造物の維持管理の基本的な考え方

3.1　管理の現状

藤崎町が管理する防雪柵・標識及び街路灯・防護柵・融雪溝の多くは建設から長い年月が経ったものが多く、老朽化が進行している。

防雪柵は、経年劣化による錆・腐食、また、スリップ事故等による事故の当て逃げなどで防雪柵の機能を成していない箇所もある。強風により腐食した箇所から外れ、第三者への被害も考えられる。1級、2級路線や常盤中部線、福島広域線のような国道、県道を結ぶ重要な路線を優先して修繕していく。

標識・街路灯は、令和元年度に実施した定期点検業務によると、点検した施設69基のうち6基(9%)が損傷や錆により施設の倒壊、落下のおそれありと判定されている。特に村井唐糸線や東若松早稲田西線は県道を結ぶ重要な路線であり、豊田村岡線、西田北常盤停車場線は通学路となっているため優先して修繕していく。

防護柵は、経年劣化による錆・腐食・事故などにより、機能を成していない箇所がある。機能を成していない箇所に車が当たると、そのまま水路等に転落するおそれがある。特に豊岡線、常盤水木線は小・中学校沿線であり、破損によるケガ、水路への転落のおそれがあるため優先して修繕していく。

融雪溝においては、ポンプの経年劣化により、十分に計画水量を吸い上げることができないため、除雪した雪を片付けても融けず、路肩に雪が残る状況になる。そのため道幅が確保できず、歩行者と車の接触事故のおそれがある。県道前坂藤崎線のポンプは、設置してから20年以上たつため、優先して修繕していく。

このように、経年劣化による小型構造物の劣化が確認されていることから、今後は事故が起こる前に老朽化の程度を把握し対策を講じる「予防保全」型の維持・補修を実施することが求められている。

○点検結果（標識・街路灯）

藤崎町道路附属物定期点検業務委託　点検結果(令和元年6月発注)

	判定結果Ⅰ	判定結果Ⅱ	判定結果Ⅲ	計
標識	14	7	4	25
街路灯	5	37	2	44
計	19	44	6	69

判定Ⅰ：異常なし

判定Ⅱ：経過観察の必要あり

判定Ⅲ：施設の倒壊、落下のおそれあり

3.2　小型構造物の劣化状況

・防雪柵

固定式	仮設式
事故により、板が曲がっている。	全体的に錆びている。

・標識、街路灯

標　識	街路灯
経年劣化による破損。	経年劣化による破損。

・防護柵

ガードケーブル	ガードパイプ
締めることができない。	経年劣化による破損。

ガードレール
経年劣化による破損。

・融雪溝

すれ違うのが困難。	水が少ないため融けない。

3.3　管理施設の分類

・小型構造物に生じる事象の区分に応じて分類

代表的な附属物の種類		区分	事象
防雪柵	固定式、仮設式	主に路側式の附属物（以下「路側式」）	落下、転倒事象の恐れがある附属物
標識	Ｆ型、逆Ｌ型、Ｔ型及び高所に設置された単柱式又は複柱式	主に片持ち式の附属物（以下「片持ち式」）	落下、転倒事象の恐れがある附属物
	単柱式、複柱式（片持ち式に分類したものは除く）	主に路側式の附属物（以下「路側式」）	転倒事象の恐れがある附属物
照明	逆Ｌ型、Ｙ型、直線型	主に片持ち式の附属物（以下「片持ち式」）	落下、転倒事象の恐れがある附属物
防護柵	車両用防護柵、横断防止柵、転落防止柵	主に路側式の附属物（以下「路側式」）	転倒事象の恐れがある附属物
融雪溝	融雪溝、散水設備、ポンプ、操作・配電盤	主に路側式の附属物（以下「路側式」）	転倒、接触事象の恐れがある附属物

3.4　点検方法・点検頻度

・防雪柵

区分	点検方法	点検頻度
路側式	巡　視	巡視の機会を通じた状況把握

・標識

区分	点検方法	点検頻度
片持ち式	巡　視	巡視の機会を通じた状況把握
	詳細点検	10 年に１度
	中間点検	5 年に１度 （詳細点検の補完のために中間的時期に実施）
路側式	巡　視	巡視の機会を通じた状況把握

・照明

区分	点検方法	点検頻度
片持ち式	巡　視	巡視の機会を通じた状況把握
	詳細点検	10 年に１度
	中間点検	5 年に１度 （詳細点検の補完のために中間的時期に実施）

・防護柵

区分	点検方法	点検頻度
路側式	巡　視	巡視の機会を通じた状況把握

・融雪溝

区分	点検方法	点検頻度
路側式	巡　視	巡視の機会を通じた状況把握

4. 計画期間

・当該個別施設計画の計画期間は、計画策定後 5 年とする。

5. 対策の優先順位（補修計画の方針）

小型構造物管理基本方針は個別施設計画の策定にあたって、点検結果を踏まえた適切な措置を行うことで、第三者等への被害を発生させず、安全で合理的な管理を目指す。深刻度、損傷状況、路線の重要性（1 級・2 級路線、通学路）等を考慮し、早期対策が必要と判定された小型構造物を優先に修繕や交換を実施する。

6. 対策内容、修繕費用、実施時期

【防雪柵】対策内容

路線番号	路線名	種　類	修繕延長（m）	修繕内容
3-438	常盤中部線	固定式	400	板・支柱・取付金具の更新
3-449	福島広域線	固定式	800	板・支柱・取付金具の更新
1-18	福舘水木線	仮設式	116	板・支柱・取付金具の更新
2-6	矢沢柏木堰前田線	仮設式	196	板・支柱・取付金具の更新
2-20	福島徳下線	仮設式	132	板・支柱・取付金具の更新
3-236	東若松早稲田線	仮設式	200	板・支柱・取付金具の更新
3-428	県道若松踏切線	仮設式	200	板・支柱・取付金具の更新

【標識】

■措置が必要な箇所一覧

No,	整理番号	路線番号	路線名	設置箇所	設置方法	対策内容
1	1-12-003	1-12	村井唐糸線	藤崎町大字藤崎地内	片持ち式	横梁取付部ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄ及び標識板の交換
2	236-005	3-236	東若松早稲田西線	藤崎町大字五林地内	片持ち式	支柱交換

○修繕費用　2 基　365 万円

○修繕時期　令和 3 年度完了

補修前

補修後

【照明】

■措置が必要な箇所一覧

No,	整理番号	路線番号	路線名	設置箇所	設置方法	対策内容
1	2-17-002	2-17	豊田村岡線	藤崎町大字西豊田二丁目地内	片持ち式	灯具カバー交換
2	2-17-19	2-17	豊田村岡線	藤崎町大字藤崎地内	片持ち式	灯具交換
3	340-001	3-340	西田北常盤停車場線	藤崎町大字常盤地内	片持ち式	灯具交換

○修繕費用　3 基　112 万円

○修繕時期　令和 2 年度補修完了

補修前

補修後

【防護柵】対策内容

路線番号	路線名	種　類	修繕延長（m）	修繕内容
1-23	常盤徳下線	パイプ	130	パイプ・支柱の更新
1-20	常盤水木線	レール	280	レール・支柱の更新
1-25	福島馬場尻線	仮設式	1200	レール・支柱の更新

【融雪溝】

・利用状況や使用年数により、ポンプ・配電盤の更新。

番号	設置箇所	設置路線	設置年度	更新年度	掘削深
1	藤崎字若前 33-1	県道　前坂藤崎線	H7	－	50m
2	藤崎字若前 51-3	県道　前坂藤崎線	H6	－	汲み上げ
3	藤崎字一本柳 38-4	県道　太田藤崎線	H7	－	60m
4	藤崎字武元 17-4	国道 339 号 県道　前坂藤崎線	S63	H28	55m
5	藤崎字武元 17-2	県道　前坂藤崎線	H3	H26	50m
6	藤崎字下袋 106-3	国道 339 号 県道　前坂藤崎線	H21	－	222m
7	藤崎字銅屋森 38-3	町道　村元線	H11	－	52m
8	藤崎字村岡 15-4	町道　四本松村岡線	H8	－	50m
9	藤崎字四本松 106-4	国道 339 号 県道　黒石藤崎線 町道　四本松村岡線	H8	H26	30m
9-1	藤崎字新城 127-4	県道　黒石藤崎線 （凍結防止ﾕﾆｯﾄ）	H8	－	－
10	藤崎字村岡 84-2	町道　舘岡村岡線	H26	－	60m
11	藤崎字中村井 21-1	県道　藤崎停車場線	H29	－	汲み上げ
12	藤崎字舘岡 58-2	県道　藤崎停車場線	H21	－	汲み上げ
13	中島字中元 7-2	県道　浪岡藤崎線	H5	－	42m
14	柏木堰字亀田 64-3	県道　五所川原黒石線	H19	H27	350m
15	矢沢字岩崎 3-5	町道　福富 3 号線	H28	－	125m
16	中島字岩崎 3-5	町道　岩崎線	H29	－	125m
17	常盤字二西田 40-33	町道　西田住宅団地 7 号線	H12	－	300m
18	富柳字早稲田 17-1	町道　富柳神社線	H9	H28	300m
19	常盤字五宮本 27-1	県道　五所川原黒石線	H2	R1	350m
20	常盤字五宮本 50	町道　常盤神社線	H2	－	300m
21	榊字亀田 2-93	町道　亀田幹線 2 号線	H12	－	350m

修繕計画年表

施設＼年度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年		合計(5カ年)
防雪柵 (固定式)				調査業務	100m 1,500万円		300m 1,500万円
防雪柵 (仮設式)				調査業務	100m 1,500万円		300m 1,500万円
標　識		2基(補修済) 365万円					2基(補修済) 365万円
照　明	3基(補修済) 112万円						3基(補修済) 112万円
防護柵				350m 900万円	350m 900万円		700m 1800万円
融雪溝			点検業務	点検結果により検討			

総事業費　5,277万円

7. 記録

・点検及び撤去・更新、交換、廃止等を行った際には、その内容と実施時期等の履歴を確実に記録し、これを保管する。